



## 10月のコラム ～区切りのお付き合い～

あるIT関係の業界団体で毎年「中核人財ステップアップ研修」の講師させていただいています。全7回のうち2回をお引き受けしており、テーマは、「チームビルディング」と「アサーション」。昨日2回目が終わってホッとしているところです。この内容での研修は、10年ほど前からですが、当初は、新入社員研修もお引き受けしていたので、もう20年以上関わらせていただいていることとなります。当時の新入社員は、もう中核どころか幹部になっておられる方もおられるはず。これだけ年月が経つと個人毎の記憶はないのですが、社会人になってから、どんな職業人生を送られているのかなと思いが巡ります。

社会保険労務士として就業規則の作成や人事評価制度の構築などに関わる中で、そういったルールや制度を上手く運用していくためには、コミュニケーションや組織の活性化といったソフト面も重要だと感じ、コーチングやカウンセリングの勉強を始めたことで、このような研修にも取り組むことになりました。何でもやってみたいという性格があればこれ挑戦させてくれます。

ただ、このくらいの年齢になると身体的にも精神的にも衰えを感じるが増え、引き際というものを考えるようになります。

先の研修もずっと対面で行っていたものが、3年前からコロナの影響でZOOMになりました。グループ討議はブレイクアウトルームを活用、手を挙げて発表してもらっていた部分は、チャットを使用します。おかげでZOOMも結構使いこなせるようになり、時代の要請に合わせて挑戦できるのはありがたいことです。が、同時に「もういいんじゃない」という声も心の奥から聞こえてきます。若い方に経験の機会を回していくことも必要ですよ。

と言うことで、コミュニケーション関係の研修は、これをもってお引き受けするのを辞めることにします。少し前から考えていたのですが、評判がいいので続けて欲しいという主催者からのオファーに、つい嬉しくなって続けてきました。ここでこうしてコミットメントすれば、区切りがつけられそうです。元々私的な内容のコラムとはいえお付き合いさせてしまい申し訳ありません。

社労士業は、衰えと戦いつつも質を落とさない方向で色々対策を練りながらもう少し頑張ります！

2022年10月 水田かほる